研究ノート

高齢者の集団歌唱における歌の好みについて
－『生きがいづくり教室』のリクエスト曲の検討－

櫻井　琴音

(佐賀短期大学　幼児教育学科)

(平成16年12月３日受理)

Song Preference of Elder People in Group Singing
－Examining the Songs Requested in the Life-Enjoyment Class－

Kotone SAKURAI

(*Departmemt of Infant Education, Saga Junior College*)

(Accepted December 3, 2004)

Abstract

The Life-Enjoyment Class for elder people started in April 1994. Every Wednesday, we have a variety of programs such as music activities, playing games with our students and so on. From the beginning, I've been in charge of the music program.
Participant's ages ranged from 64 to 89 years old, and the average was 74.4 in 2003.
The purpose of this study was to analyze the characteristics of the songs requested by the elder people.

The results

1) Japanese popular hit songs, "Kayoukyoku", were their most favorite songs and they stand for about 88.1% of the songs requested.
2) The relation between the age of participants and the requested songs showed that 90% of the songs should have been known for the first time by the participants before age of 40.
3) Most of the songs requested by them were the popular songs of their young adulthood.

Key words：高齢者 elder people
集団歌唱 group singing
リクエスト request
好み preference

Ⅰ．緒　言

集団で行う音楽活動の内容は、その集団を構成する参加者の年齢層、心身機能の状態、活動目的、参加人数、楽器などの備品の状況、会場の物理的環境等によって、それぞれ異なってくる。高齢者を対象にした音楽活動は、精神科等の病院における音楽療法としての実践もあれば、地域の公民館等で行われている余暇活動としての取り組みも見られる。音楽活動を治療として行うのか、或いは、余暇活動として行うのかという目的の相違は、当然のことながら、活動内容の相違となって現れてくることは言うまでもない。

平成６年４月、本学の健康福祉・生涯学習センターにおいて、『生きがいづくり教室』の活動が開始された。活動開始当初より、『生きがいづくり教室』は地域の高齢者を対象に、参加者の相互交流を図ることを活動目的とし、プログラム全体が構成されている。したがって、筆者が担当している音楽活動の時間帯も、上記の目的での余暇活動の一環として位置付け、取り組んできた。具体的な音楽活動の内容は、その年度の参加者のニーズを考慮し、幅広い内容と成り得るよう検討しつつ、臨機応変に対応することを心がけている。この『生きがいづくり教室』の取り組みを継続する中で得られた音楽活動のデータは、介護福祉士養成課程に在籍する学生にとって、有益な教材と成り得ると考えられる。

本研究では、様々なデータの中から、平成15年度に実践した、参加者からのリクエスト形式による集団歌唱活動を取り上げ、歌の好みについてのデータとしてまとめた。その結果、高齢者の集団歌唱活動における、選曲上の留意点に関して、いくつかの知見が得られたので、考察を加え報告する。

なお筆者は、このデータのみによって、高齢者の集団歌唱における歌の好みについての結論を導き出そうとしているのではない。この小論では、このような取り組みの意義を明示し、今回得られたデータの概要を示すものであることを、あらかじめ断っておく。

Ⅱ．『生きがいづくり教室』の概要

『生きがいづくり教室』は、平成６年４月、本学の健康福祉・生涯学習センターにおいて、活動を開始した。この活動は、水曜日の10：20～14：00の時間帯に行っている。前期、後期ともに10回ずつで、年間計20回行っている。過去10年間の活動内容は、年度によって、参加者の希望を取り入れながら対応してきた。平成15年度のプログラムは、音楽活動、軽い体操、生活福祉学科２年次学生の企画によるレクリエーションで構成されていた。

参加対象者は、人との交わりや仲間づくりを希望する、おおむね65歳以上の地域の高齢者である。継続年限は設けていないが、毎年、年度始めに参加登録をして頂くことになっている。参加者の大半は、継続参加を希望される。したがって、実質的な参加者の入れ替わりは、毎年、数名程度という状況である。

研究の対象となった平成15年度の参加登録者数は、男性８名、女性30名、計38名であった。その中の10名は、『生きがいづくり教室』の活動開始当時からの参加者で、10年間、継続して参加されている。

年齢層は64歳から89歳で、最大で25歳の年齢差があった。平均年齢は、74.4歳。70歳代前半の参加者が最も多く12名（32.4%）、次いで70歳代後半が11名（27.0%）となっており、70歳代の参加者が全体の６割弱を占めていた。参加者全体の各年齢層内訳は、＜図１＞を参照していただきたい。

音楽活動の時間は、１回につき30～40分程度で、活動開始当初から、筆者が継続して担当している。10年間の音楽活動を振り返ってみると、これまでに童謡、唱歌、民謡、軍歌、寮歌、歌謡曲、外国曲等、様々なジャンルの曲を取り上げてきた。

『生きがいづくり教室』の参加者からの発言は、比較的得やすい。筆者が関わり方を配慮すれば、一部の参加者からの発言に偏ることなく、より多くの参加者からの発言を活動に採り込むことが可能である。平成15年度に、参加者からのリクエスト曲による音楽活動を行うことを試みることにした背景には、そのような状況が得られているということが大きな要因となっている。

Ⅲ．研究方法

平成15年度の参加者に対して、リクエスト形式の集団歌唱を提案したところ、参加者自身もどのような曲が出てくるのかということに対して、筆者の予想以上に興味を示した。リクエスト曲は、平成14年度までの『生きがいづくり教室』で取り上げた曲に限定はしない、また曲のジャンルは一切問わない、ということを参加者に対して予め伝えておいた。

リクエスト方法は、①『生きがいづくり教室』の日毎に、筆者が配布する紙に曲名を記入して提出する、②自宅でふと思いついた曲があれば、それをメモして持参する、③『生きがいづくり教室』の音楽活動中に、その場でリクエストする、という方法を取った。曲名を思い出せない場合は、歌いだしの歌詞でのリクエストも可とした。また、一人がリクエストできる曲数や回数に対する制限は、特に明言しなかった。

平成15年度の参加者から出されたリクエスト曲を整理し、下記の要素について分析した。

・リクエストをした参加者の年齢層

・曲の年代別内訳
・曲のジャンル別内訳
・リクエストをした参加者と歌手の性別
・リクエストをした参加者の年齢と歌の年代の関係
・複数の参加者がリクエストした曲
・リクエスト曲の音域

Ⅳ．結　果

参加者38名中、リクエストをした参加者は18名で、参加者全体の約半数に相当していた。リクエストを出した参加者の年齢層の内訳は、<図２>の通りである。68歳から82歳の方が、前述①～③のいずれかの方法でリクエストを出された。それを年齢層別に見ると、70歳代前半が最も多く７名（38.9%）、次いで70歳代後半５名（27.8%）という結果であった。70歳代は参加者数も多いが、リクエストを出される方も多かった。80歳代前半の参加者でリクエストを出された２名の方は、活動中の発言は少ないが、前述の②のリクエスト方法、すなわち曲名や出だしの歌詞を書きとめたメモを自宅から持参し、筆者に手渡すという方法で、繰り返しリクエストを出された。年齢層にかかわらず、リクエスト方法の中で最も多くみられたのは、この方法でのリクエストであった。

リクエスト曲は、全部で42曲出た<表１>。それらを年代別に分類したところ、明治から平成初期までの幅広い年代の曲が入っていた<図３>。最も多くリクエスト曲が出た年代は、昭和30年代の15曲（35.7%）であった。次いで、20年代の曲が11曲（26.2%）という結果であった。昭和30年代と20年代のこれらの曲が、リクエスト曲全体の6割強を占めた。昭和10年代から昭和30年代までの曲を境にして、その前後の年代の曲は全て一桁という数値になっており、曲の年代によってリクエスト曲数に偏りが見られた。

ジャンル別に分類すると、童謡、唱歌、寮歌、歌謡曲に分かれた<図４>。その中でも、歌謡曲はリクエスト曲全体の９割弱を占め、他のジャンルに比べて圧倒的に多かった。平成14年度までの音楽活動では、上記のジャンル以外の民謡、軍歌、外国曲等も頻繁に採り上げてはいたのだが、平成15年度のリクエスト曲に、これらのジャンルの曲は含まれていなかった。

参加者と歌手の性別に関して調べてはみたが、今回、性別による好みの違いは、特に認められなかった。

リクエストをした参加者と歌の年代の関係について調べるために、ある人がある曲を聴く可能性があったのは、何歳であったのかという数値を出した<図５>。例えば、参加者全員にとって、明治時代の唱歌は、０歳で聴きえたということになる。集計の結果、リクエスト曲には20歳代に知りえた曲が最も多く40.8%、次いで30歳代に知りえた曲が26.5%という結果であった。全体的に見てみると、40歳代までに知りえた曲が、リクエスト曲の約９割（89.7%）を占めていた。

複数の参加者から出された曲名については、<表２>を参照していただきたい。これらの曲は、いずれも、その年代を代表する歌手が歌った曲である。複数の参加者からリクエストされた曲は、昭和20年代と30年代の曲に集中していたが、平成初期の比較的新しい曲（川の流れのように、美空ひばり）も含まれていた。

歌唱直後、「国境の町」と「上海帰りのリル」の２曲に対しては、参加者から歌いづらいという声が上がった。参加者の訴えが音域に関する内容であったことから、メロディーの最低音と最高音の音程を調べた。各曲の音域の広がりについては、<表３>を参照していただきたい。最も音域が狭い曲で１oct.（１曲のみ）、最も広い曲では１oct.と短６度（全７曲）となっていた。歌いづらいと指摘された上記２曲は、いずれもリクエスト曲中、最も音域の広い曲群に属している。同様の音域の広がりを持つ曲は、「国境の町」と「上海帰りのリル」以外に、「波浮の港」「誰か故郷を想わざる」「湯の町エレジー」「古城」「ああ上野駅」があった。しかし、これら５曲からは、歌いづらいという参加者の声は聞かれなかった。

Ⅴ．考　察

リクエストを出す時には、様々な要素があると考えられる。その場の瞬間的な思いつきや気持ちで出される場合もあれば、日頃から好んで口ずさんでいる曲を出される場合もあると思われる。曲としては、誰もが知っている馴染みの曲、或いは、個人的に興味がある曲等が考えられる。が、いずれにせよリクエストされる曲というのは、その方にとって好ましい曲であるということが考えられる。

平成15年度はリクエスト形式による歌唱活動を行い、選曲方法を大きく変更させた。しかし、それによって参加者が躊躇されるという様子は、特に認められなかった。“いつもの場所”に、“いつもの顔ぶれ”が集い、“いつものように音楽活動”をするという、所謂、馴染みの関係がすでに構築されていたということが、この活動を支える上での大きな要因となっていたと思われる。歌唱後の発言は、必ずしもリクエストした人に限定されてしまうということが無いよう、筆者が配慮しつつ対応した。それによって、リクエストを出さなかった参加者も、会話の場面では積極的に参加する姿が見られた。一部の参加者によって、活動が進行していくということにならないよう配慮する必要性はあると思う。

リクエスト曲による活動を試みた結果、平成15年度

『生きがいづくり教室』では、歌唱後の発言者数に増加がみられた。参加者の中には、その日の話題に関係する思い出の品を探し、次の週、自宅から持参して披露される方もあった。そのような参加者の行動は、参加者同士の新たな話題へと、更に繋がっていった。

音楽活動の中でも、特に、歌唱が回想を促す上で非常に有効であるということは、周知の通りである。他者の発言に耳を傾け、共感しつつ、自らも発言するという会話のひと時は、『生きがいづくり教室』の他者との交流という活動目的に合致する活動であったといえよう。筆者にとっても、その場の雰囲気は、終始、和やかな空間であった。個人的な思い出話に関する発言に対しても、参加者は互いに温かみのある発言を返しつつ、受け止めてくれていた。他者からの共感を得るという体験は、参加者にとって貴重な体験であったと思われる。ある特定の年代、それにまつわる思い出を想起する上で、その時代に流行った歌謡曲というのは、多大な力を有しているということを改めて痛感した。このような対象者の反応は、童謡や唱歌だけでは得られまい。

リクエスト曲の中で、20歳代から30歳代に知りえたと考えられる曲が、全体の6割強を占めていたという結果は、注目すべき内容であると思われる。全体的に見て、40歳代までに知りえたと考えられる曲が、リクエスト曲の約9割（89.7%）を占めたのに比べ、50歳代以降に知りえたと考えられる曲のリクエストは6.1%と極端に少なかった。このことから、比較的に新しい曲は、高齢者のレパートリーの中に残りにくい傾向があるということが言えよう。

音楽活動を実践しつつ、それと並行して、活動の対象集団のこのようなデータを作成していくことは、大変意義のある重要な作業であると考える。なぜならば、ある目的をもって音楽を活用する場合、そこで用いる曲は、対象者がご存知の曲であれば良い、というものではない。つまり、高齢者という大きな枠組みの中で対象者を捉え、選曲するわけにはいかないはずである。膨大な数の曲の中から、活動目的と対象者にヒットする曲を探し当てるためには、今回、筆者が行ったような作業を積み重ねていくことが求められると考える。たとえ同じ施設内の活動ではあっても、対象者の顔ぶれは徐々に入れ替わっていくので、それに伴いヒットする曲も入れ替わっていく可能性がある。今回、リクエスト曲にフォークソングは、全く含まれていなかったが、筆者が高齢者になった時には、ぜひともフォークソングをリクエストしてみたいものである。世代が異なれば、ジャンルが異なってくることも、当然あり得ることである。

馴染みの曲というのは、世代間によって異なると思う。この研究に取り組む過程で、筆者は『生きがいづくり教室』でのリクエスト曲に対する学生のレパートリーの実態は、どのようになっているのだろうか、という疑問を抱くようになった。そこで、筆者は平成16年10月に、介護福祉士養成課程に在籍する全学生166名を対象に、アンケート調査を実施した＜表４＞。このアンケート調査の有効回答は156名、回収率94.0%であった。集計結果は、＜表５＞の通りである。『生きがいづくり教室』のリクエスト曲に対する学生のレパートリーは、一人平均６曲であった。知っている曲が０曲だった学生も、１年次生に４名いた。この結果から、高齢者世代と学生世代とでは、曲のレパートリーが明らかに異なっているということがいえる。今回のリクエスト曲の多くが歌謡曲であったことも、世代間のレパートリーの違いに大きく影響していると考えられる。

加齢に伴い、発声器官も老化が進む。筆者は、対象者にとって歌いやすいと思われる音域を配慮し、その場で移調して伴奏している。が、最高音と最低音の音域の広がりが大きければ大きいほど、高齢者にとって歌いづらい音域の音が含まれてしまうということは、確かに起こり得ることである。参加者の指摘が、音域に関する内容であったとはいえ、この歌いづらさは音域の広さだけによるものではないと考えられる。「国境の町」と「上海帰りのリル」のメロディーラインには、跳躍が多く、細分化されたリズムパターンもみられる。若干テンポを遅くし、移調して伴奏したとしても、高齢者にとっては発声のコントロールが難しく、音が外れやすくなってしまう可能性がある。確かに、曲の構造上、歌いづらい曲ではある。しかし、たとえ歌いづらくても、自分の人生に於いて思い出深い曲であったり、歌詞の内容に心打たれたり、或いは好きな歌手が歌っていた曲等の理由があれば、今回のようにリクエスト曲としてリストアップされることもあり得る。

集団歌唱活動での選曲上の配慮として、曲の構造に目を向けることは、重要な要素であると思われる。リクエストが出れば、歌いづらいと思われる曲も取り上げることにはなる。その際、対象者に歌唱を楽しんで頂くために、歌いづらい曲の後には、曲の構造上歌いやすいと思われる曲をさりげなく配置するというような、対象者への心理的負担に対する配慮も求められよう。

かつて唱歌は、年齢や性別を越えて、共に歌える曲の代表的存在であった。しかし、若い学生たちが使った音楽の教科書からは、すでに多くの唱歌が姿を消している。このことは、学生たちの唱歌のレパートリーが、高齢者に比べて極端に少ないという、現状の一因

となっていると考えられる。高齢者の施設では、何らかの形で音楽活動が行われており、当然のごとく、本学の介護福祉士養成課程の学生も、卒業後、施設での音楽活動に関わる可能性がある。したがって、彼らには高齢者の馴染みの曲を、自らのレパートリーの中に取り込んでいくための努力を重ねることが求められる。歌唱中の参加者は、声を出して歌う方ばかりではなかった。手で拍子を取りつつ歌う方、歌を自分の中で歌ってフレーズで息つぎをされる方、目を閉じて時折口ずさむ方、歌ったり聴き入ったりを自由に楽しんでおられる方等、さまざまであった。集団歌唱活動という一つの活動の中にも、さまざまな参加の仕方が存在する。学生たちには、高齢者の微細な反応に対しても、細やかに目を向けつつ対応できるようになって欲しいと願っている。

参考文献

①Moore,R.,S.,Staum,M.J.,&Brotons,M.1992 Music Preferences of the elderly：Repertoire,Vocal ranges,tempos,and accompaniments for singing.Journal of Music Therapy,29.

②櫻井　琴音「生きがいづくり教室：音楽活動(1)」永原学園・西九州大学・佐賀短期大学　紀要、26、1996

③浅野　純　後藤　裕「全音歌謡曲大全集」、全音楽譜出版社

④長田　暁二「日本唱歌名曲集」、全音楽譜出版社、1998

⑤志村　文代「愛唱名歌」、野ばら社、1989

図1．『生きがいづくり教室』参加者年齢層

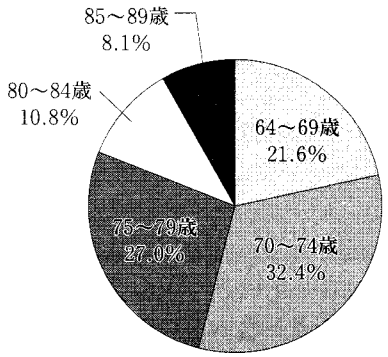

図2．リクエストをした参加者の年齢層

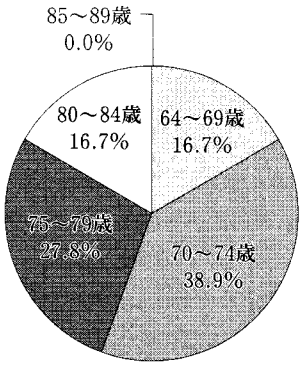

図3．リクエスト曲の年代別内訳

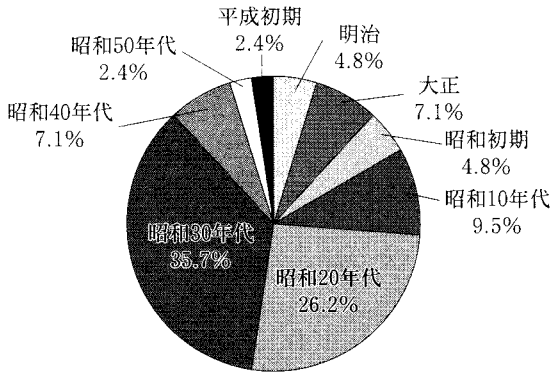

図4．リクエストの曲のジャンル別内訳

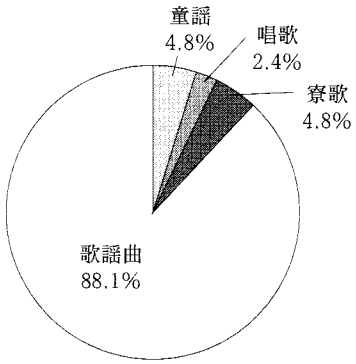

図5．リクエストした参加者の年齢と歌の年代の関係

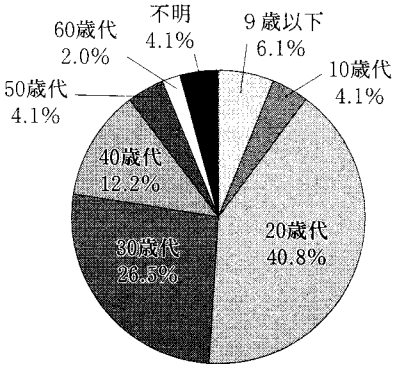

表1．リクエスト曲名・年代・歌手名・ジャンル

年　代	年	曲　名	歌手名	ジャンル
明治	41	人を恋うる歌		寮歌
	45	汽車		唱歌
大正	8	琵琶湖周航の歌		寮歌
	12	赤い靴		童謡
	12	肩たたき		童謡
昭和初期	3	波浮の港	藤原　義江	歌謡曲
	9	国境の町	東海林　太郎	歌謡曲
昭和10年代	10	真白き富士の根	ミス・コロンビア	歌謡曲
	15	誰か故郷を想わざる	霧島　昇	歌謡曲
	15	隣組	徳山　王連	歌謡曲
	17	新雪	灰田　勝彦	歌謡曲
昭和20年代	21	みかんの花咲く丘	川田　正子	NHKラジオ歌謡
	22	鐘の鳴る丘（とんがり帽子）	川田　正子	歌謡曲
	22	山小舎の灯	近江　俊郎	歌謡曲
	23	湯の町エレジー	近江　俊郎	歌謡曲
	24	青い山脈	藤山　一郎	歌謡曲
	24	長崎の鐘	藤山　一郎	歌謡曲
	25	あざみの歌	伊藤　久男	歌謡曲
	25	白い花の咲く頃	岡本　敦郎	歌謡曲
	26	上海帰りのリル	津村　謙	歌謡曲
	29	高原列車は行く	岡本　敦郎	歌謡曲
	29	夏の思い出	藤山　一郎	NHKラジオ歌謡
昭和30年代	31	若いお巡りさん	曾根　史郎	歌謡曲
	31	ここに幸あり	大津　美子	歌謡曲
	32	船方さんよ	三波　春夫	歌謡曲
	33	夕焼けとんび	三橋　美智也	歌謡曲
	33	おーい中村君	若林　一郎	歌謡曲
	34	古城	三橋　美智也	歌謡曲
	34	雪山讃歌	ダークダックス	歌謡曲
	34	南国土佐を後にして	ペギー葉山	歌謡曲
	36	山男の歌	ダークダックス	歌謡曲
	36	君恋し	フランク永井	歌謡曲
	36	武田節	三橋　美智也	歌謡曲
	36	北帰行	小林　旭	歌謡曲
	36	王将	村田　英雄	歌謡曲
	38	こんにちは赤ちゃん	梓　みちよ	歌謡曲
	39	ああ上野駅	井沢　八郎	歌謡曲
昭和40年代	40	新聞少年	山田　太郎	歌謡曲
	43	ブルーライト・ヨコハマ	いしだ　あゆみ	歌謡曲
	48	くちなしの花	渡　哲也	歌謡曲
昭和50年代	53	坊がつる讃歌	芹　洋子	歌謡曲
平成初期	1	川の流れのように	美空　ひばり	歌謡曲

（注）各曲の歌手名は、レコード発売時の名前を記載した。また、年代はレコード発売年を示す。
明治・大正時代の作品で歌手名が特定されていない楽曲（唱歌等）は、その楽曲が出版された年を記載した。

表2．複数の参加者がリクエストした曲

年　代	曲　　名	人数	歌　手　名
昭和15年	誰か故郷を想わざる	3	霧島　昇
昭和22年	鐘の鳴る丘	2	川田　正子
昭和23年	湯の町エレジー	5	近江　俊郎
昭和24年	長崎の鐘	4	藤山　一郎
昭和29年	高原列車は行く	4	岡本　敦郎
昭和29年	夏の思い出	4	藤山　一郎
昭和31年	ここに幸あり	5	大津　美子
昭和32年	船方さんよ	5	三波　春夫
昭和34年	古城	4	三橋　美智也
昭和34年	南国土佐を後にして	3	ペギー葉山
昭和36年	君恋し	3	フランク永井
昭和48年	くちなしの花	3	渡　哲也
平成１年	川の流れのように	4	美空　ひばり

表3．リクエスト曲の音域

曲　　名	音　　域
人を恋うる歌	1oct.と完全5度
汽車	1oct.
琵琶湖周航の歌	1oct.と長2度
赤い靴	1oct.と短3度
肩たたき	1oct.と完全4度
波浮の港	1oct.と短6度
国境の町	1oct.と短6度
真白き富士の根	1oct.と完全4度
誰か故郷を想わざる	1oct.と短6度
隣組	1oct.と長2度
新雪	1oct.と完全4度
みかんの花咲く丘	1oct.と完全4度
鐘の鳴る丘（とんがり帽子）	1oct.と長3度
山小舎の灯	1oct.と長3度
湯の町エレジー	1oct.と短6度
青い山脈	1oct.と長3度
長崎の鐘	1oct.と完全4度
あざみの歌	1oct.と完全4度
白い花の咲く頃	1oct.と完全5度
上海帰りのリル	1oct.と短6度
高原列車は行く	1oct.と長3度
夏の思い出	1oct.と短3度
若いお巡りさん	1oct.と短3度
ここに幸あり	1oct.と完全4度
船方さんよ	1oct.と完全5度
夕焼けとんび	1oct.と完全5度
おーい中村君	1oct.と完全4度
古城	1oct.と短6度
雪山讃歌	1oct.と長2度
南国土佐を後にして	1oct.と短3度
山男の歌	1oct.と長3度
君恋し	1oct.と完全4度
武田節	1oct.と短2度
北帰行	1oct.と完全4度
王将	1oct.と完全4度
こんにちは赤ちゃん	1oct.と長2度
ああ上野駅	1oct.と短6度
新聞少年	1oct.と完全5度
ブルーライト・ヨコハマ	1oct.と短3度
くちなしの花	1oct.と短3度
坊がつる讃歌	1oct.と完全4度
川の流れのように	1oct.と完全5度

表4．アンケート用紙

あなたの学科を○で囲んで下さい。(生活福祉学科１年・生活福祉学科２年・専攻科)
知っている曲（曲の出だしが一人で歌える）の番号に、○印を付けてください。

番号	曲　　名	出だしの歌詞
1	あざみの歌	山には山の　憂いあり
2	真白き富士の根	真白き富士の根　緑の江の島
3	山男の歌	娘さんよく聞けよ
4	坊がつる讃歌	人みな花に酔うときも
5	古城	松風騒ぐ　丘の上
6	国境の町	そりの鈴さえ　寂しく響く
7	青い山脈	若く明るい歌声に
8	誰か故郷を想わざる	花摘む野辺に　日は落ちて
9	くちなしの花	いまでは指輪も　まわるほど
10	鐘の鳴る丘	緑の丘の　赤い屋根
11	肩たたき	かあさんお肩をたたきましょう
12	船方さんよ	おーい船方さん　船方さんよ
13	白い花の咲く頃	白い花が咲いてた
14	若いお巡りさん	もしもしベンチでささやくお二人さん
15	夕焼けとんび	夕焼け空が　まっかっか
16	湯の町エレジー	伊豆の山々　月あわく
17	新雪	紫けむる　新雪の
18	ここに幸あり	嵐も吹けば　雨も降る
19	みかんの花咲く丘	みかんの花が　咲いている
20	ああ上野駅	どこかに故郷の　香りをのせて
21	おーい中村君	おーい中村君　ちょいとまちたまえ
22	川の流れのように	知らず知らず　歩いて来た
23	君恋し	宵闇せまれば　悩みは涯なし
24	高原列車は行く	汽車の窓から　ハンケチ振れば
25	上海帰りのリル	船を見つめていた　ハマのキャバレーにいた
26	新聞少年	僕のアダナを知ってるかい
27	武田節	甲斐の山々　陽に映えて
28	隣組	とんとんとんからりと　隣組
29	長崎の鐘	こよなく晴れた　青空に
30	夏の思い出	夏が来れば　思い出す
31	南国土佐を後にして	南国土佐を　後にして
32	人を恋うる歌	妻をめとらば　才たけて
33	琵琶湖周航の歌	我は湖（うみ）の子　さすらいの
34	ブルーライト・ヨコハマ	町の灯りが　とてもきれいね
35	北帰行	窓は　夜露に濡れて
36	王将	吹けば飛ぶよな　将棋の駒に
37	山小舎の灯	たそがれの灯は　ほのかに点りて
38	こんにちは赤ちゃん	こんにちは赤ちゃん　あなたの笑顔
39	雪山讃歌	雪よ岩よ　われらが宿り
40	赤い靴	赤い靴はいてた　おんなの子
41	波浮の港	磯の鵜の鳥ゃ　日暮れにゃ帰る
42	汽車	今は山中　今は浜

ご協力、有難うございました。　　幼児教育学科　櫻井琴音

表5．学生へのアンケート調査結果

曲　　名	学生人数・(%)
人を恋うる歌	3(1.9)
汽車	14(9.0)
琵琶湖周航の歌	13(8.3)
赤い靴	104(66.7)
肩たたき	93(59.6)
波浮の港	0(0.0)
国境の町	2(1.3)
真白き富士の根	1(0.6)
誰か故郷を想わざる	1(0.6)
隣組	26(16.7)
新雪	0(0.0)
みかんの花咲く丘	115(73.7)
鐘の鳴る丘（とんがり帽子）	8(5.1)
山小舎の灯	1(0.6)
湯の町エレジー	1(0.6)
青い山脈	52(33.3)
長崎の鐘	6(3.8)
あざみの歌	2(1.3)
白い花の咲く頃	1(0.6)
上海帰りのリル	0(0.0)
高原列車は行く	3(1.9)
夏の思い出	119(76.3)
若いお巡りさん	4(2.6)
ここに幸あり	3(1.9)
船方さんよ	12(7.7)
夕焼けとんび	3(1.9)
おーい中村君	2(1.3)
古城	6(3.8)
雪山讃歌	4(2.6)
南国土佐を後にして	4(2.6)
山男の歌	2(1.3)
君恋し	2(1.3)
武田節	3(1.9)
北帰行	2(1.3)
王将	7(4.5)
こんにちは赤ちゃん	134(85.9)
ああ上野駅	2(1.3)
新聞少年	2(1.3)
ブルーライト・ヨコハマ	99(63.5)
くちなしの花	5(3.2)
坊がつる讃歌	0(0.0)
川の流れのように	129(77.7)

永原学園　西九州大学・佐賀短期大学

紀　要　第35号（平成16年度）

平成17年３月1日　発行

永原学園紀要委員会

(委員長) 小　池　政　雄
香　川　せつ子
(幹　事) 清　山　洋　子
久　野　一　恵
堀　　勝　治
鶴　　静　子
(幹　事) 櫻　井　琴　音
中　島　信　行
西　村　　豊

西九州大学紀要編集小委員会

清山　洋子・久野　一恵
大島　正彦・山崎美津代
副島　順子・安部　順子

佐賀短期大学紀要編集小委員会

堀　勝治・村田　晃
高尾　兼利・櫻井　琴音

発 行 者　**西九州大学**（学長　高田　弘）
佐賀県神埼郡神埼町大字尾崎4490－9（〒842－8585）
TEL 0952－52－4191　FAX 0952－52－4194
佐賀短期大学（学長　福元　裕二）
佐賀市神園３丁目18－15（〒840－0806）
TEL 0952－31－3001　FAX 0952－31－3003
印 刷 所　㈱古川総合印刷
TEL 0952－34－5345　FAX 0952－34－5335

本紀要に掲載された論文等についての著作権は、学校法人永原学園に属する。